資料Ｉ
令和５年２月２８日
第６回総合計画審議会

第５回瑞浪市総合計画審議会
会 議 録

日時：令和４年 12 月 22 日（木）10:00～12:10
場所：保健センター３階大会議室

次　第

１．会長あいさつ
２．議　事
（１）第４回瑞浪市総合計画審議会会議録について　資料１
（２）意見収集ボードによる意見収集結果について（経過報告）　資料２
（３）政策立案ワークショップ成果報告について　資料３
（４）第７次瑞浪市総合計画基本構想について
①第７次瑞浪市総合計画基本構想（骨子案）　資料４－１
②【第６次瑞浪市総合計画→第７次瑞浪市総合計画】基本構想の構成の比較資料４－２
③【第６次瑞浪市総合計画→第７次瑞浪市総合計画】施策体系の比較　資料４－３
④第７次瑞浪市総合計画策定　全体スケジュール　資料４－４
３．その他

出 席 者

出席委員
鈴木圭子 委員　大山理晴 委員　小島博和 委員　渡辺隆夫 委員　水野勝人 委員
勝股清治 委員　山口富子 委員　中林京子 委員　福永泰子 委員　中山千鶴 委員
小池　誠 委員　稲垣昌克 委員　土屋誠治 委員　熊澤清和 委員　古田成志 委員
威知謙豪 委員　大宮康一 委員　森島嘉人 委員　東恵理子 委員　小木曽めぐみ 委員
玉川幸枝 委員　［名簿順］

欠席委員
安藤八重子 委員　林　一子 委員　萩尾英明 委員　［名簿順］

【瑞浪市】
瑞浪市理事兼総務部長　正村　和英

【事務局】
加藤　昇　（企画政策課長）
津田　良介（企画政策課企画政策係長）
三浦　啓輔（企画政策課企画政策係）

資料Ⅰ
令和５年２月２８日
第６回総合計画審議会

【第７次瑞浪市総合計画策定業務委託事業者】
本間　裕之（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）

議　事

１．会長あいさつ

【会　長】

本日はご多用のところ、また、年末で大変お忙しいところご出席賜り、感謝申し上げる。コロナウイルス感染者はまだ増えている。皆様にはくれぐれも体調に気を付けていただきたい。

前回の第４回審議会では、第７次瑞浪市総合計画の策定に関連する各種ワークショップについて、事務局より報告いただいた。本日、第５回瑞浪市総合計画審議会では、市役所をはじめ市内に配置された意見収集ボードの経過と、政策立案に関連するワークショップについて報告、第７次瑞浪市総合計画基本構想の骨子案、第６次瑞浪市総合計画との構成・施策体系の比較が議題となっている。本日も活発な意見交換の場となることを期待している。

２．議　事

【事務局】

議事に入る前に資料の確認を行う。

（資料確認）

以後の進行は大宮会長にお願いする。

【会　長】

議事に入る前に、本日の審議会の出席状況について報告する。委員総数 24 名のうち、遅れる方も含め 21 名の委員に出席いただいている。瑞浪市総合計画審議会設置条例第６条第２項の過半数以上という要件を満たしているので、本日の審議会は成立することをご報告する。

（１）第４回瑞浪市総合計画審議会会議録について

【事務局】

資料１　10 月 28 日開催の、第４回瑞浪市総合計画審議会会議録の案である。委員の皆様のご承認後、市ホームページで公表する。発言された委員のお名前は記載せず、「委員」と表記している。

【会　長】

第４回審議会の会議録について、ご自身の発言でニュアンス、趣旨などに相違があれば指摘いただきたい。

なければ、第４回瑞浪市総合計画審議会会議録についてはこれをもって確定とし、市民に

向けて公表する。

（異議なしの声）

続いて、（２）「意見収集ボードによる意見収集結果について」に移る。これは経過報告である。事務局より説明をお願いする。

（２）意見収集ボードによる意見収集結果について（経過報告）

【事務局】

資料２　第７次瑞浪市総合計画の策定に当たり、市民意見聴取の手法の１つとして、６月24日以降、この庁舎の入口、コミュニティーセンターなど計10カ所に意見収集ボードを設置している。その９月２日までの経過を報告する。

設置時から９月２日までに 265 件の意見が集まり、各施設の意見の内訳は表のとおりである。写真のように意見収集ボードを常設し、各施設に来場された方が自由に意見を付箋に記入して、貼り付ける方法を採用した。裏面は、いただいた意見を内容ごとに分類してまとめたものである。特に多かったのは、こんな施設が欲しいという直接的な要望である。続いて、病院統合の内容を含めた医療の充実を求めるもの、瑞浪市の自然や文化・歴史が守られるよう望むもの、公共交通の利便性の向上等を求めるものが多くあった。

先般報告した市民・小中学生・企業・職員アンケート、学生ワークショップ、自治会・まちづくり推進組織ワークショップなどと併せてこれらの意見を整理し、第７次瑞浪市総合計画に反映する。意見収集ボードは、今年度末まで継続して設置する。来年度に最終結果を取りまとめ、報告させていただく。

【会　長】

意見収集ボードにより多くの意見をいただくことを期待している。今の説明について、質問、意見等あるか。

【委　員】

意見収集ボードで意見収集するのはいいが、情報が少ない中で意見を収集されているように思う。PTA 連合会の会員に聞いたところ、「瑞浪市がどのような行政運営をしているかがわからない中で意見を聞かれても回答できない」という意見が多数あった。公共施設等総合管理計画が瑞浪市のホームページに載っているが、今後 50 年間で市が所有する施設の専有面積を 30％減らすという計画が書かれている。30％を減らすとなると、公立の小中学校の施設が減らす標的になる可能性があるという、立命館大学の教授の論文もある。どのように施設が集約されていくのか、自分が住んでいる地区が今後どうなっていくかなども丁寧に発信しないと、市民のニーズと行政の計画とが合致しないのではないか。

【事務局】

おっしゃるとおり、市政の情報発信が不得手と以前から言われている。今、公共施設等総合管理計画を取り上げて説明されたが、その計画に関しては、計画を策定した時に各地域の市長と語る会に私どもが同行し、計画の説明をさせていただいた。その計画のみならず、市では各分野に特化した計画がある。その中で、総合計画は市の計画の最上位に位置するものであり、各分野の計画の最新のものを企画政策課に集めて、総合計画と整合性を図る作業を並行して進めている。今回の意見収集ボードは限られたスペースで行っており、市政全体のことを説明してご意見をいただくことは難しいので、それ以外の場面を活用して積極的に情報発信していきたいと考えている。

なお、第７次瑞浪市総合計画ではビジョンブックを作り、視覚的にも分かりやすく伝えていきたいと考えている。

【会　長】

日常生活の中で気づいた点、率直に思う点を書いてもらうことがこのボードの趣旨であり、そこから一番関心の高いところを読み取ることが目的である。一方で、市役所からのわかりやすい情報提供も重要だと思う。

ほかにご質問等あるか。

【委　員】

「主な意見」の１～３位には、以前に瑞浪市内にあって無くなったものや、この地域にないものが書かれている。これをどう汲み取ったのか。汲み取れない場合の理由は何か。この資料はどうなっていくのか。今後、この資料が表に出て行くのであれば、意見をくださった方に対して、どのように摺り合わせていくのか。

【事務局】

ここで出た意見は、最終的に整理したあとに市役所全体で共有し、基本構想、基本計画、それ以下の計画のどこに位置付けるか、できるか・できないかなどを、それぞれの分野で判断しながら進める。また、この資料は整理した後、ホームページや広報で対外的に情報発信し、市としてはこのように進めていくということをPRしたいと考えている。

【会　長】

市民の方の様々な率直な意見をこのボードに書いていただき、行政ができること・できないことを仕分けするということである。できることは新しい計画に取り込まれることを期待している。映画館やショッピングモールは、行政が税金を使ってできることではないが、行政というところだけにとらわれずに、市民の生活の上で必要と思われることが率直に書かれている貴重な意見だと思うので、重要な意見として取り扱っていただきたい。

残り３カ月ほどご意見を集める期間があるので、先ほどご意見をいただいた情報提供の

仕方なども含め、改善できるところは改善いただければと思う。

この資料はこのまま市民の方の目に触れるのか。

【事務局】

これらの資料は今回の審議会の資料としてホームページに載せるため、市民の皆様の目に触れることもある。最終的に取りまとめたものをホームページ等で公開するときには、もう少し整理して、わかりやすいように説明等を付けてお示ししたいと考えている。

【会　長】

まずはこの形で報告をして、最終的にとりまとめたものを４月以降に公表されるということである。

（２）意見収集ボードによる意見収集結果について（経過報告）については以上とする。この報告についてご了承をいただけたものと思うが、よろしいか。

（異議なしの声）

続いて、（３）「政策立案ワークショップ成果報告について」、事務局よりご報告をお願いする。

（３）政策立案ワークショップ成果報告について

【事務局】

資料３　第１回の審議会において、今年度、政策立案ワークショップの取組を行うことを紹介した。行政施策において、過去の経験からという根拠ではなく、数値から根拠立てた施策立案が求められる時代となっていることから、今回、国の地方創生の取組を活用して、内閣府、経済産業省、有識者、瑞浪市の若手職員で構成する政策立案ワークショップを実施し、「瑞浪駅周辺再開発事業」をテーマに政策提案を行った。内閣府、経済産業省主導のもと、RESAS という、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し可視化するシステムを活用したり、過去に実施したアンケートの結果等のデータを分析するなど、若手職員の事実と根拠に基づく政策立案の研修、スキルアップの場となった。

瑞浪駅周辺再開発事業は市の事業の中でも重要課題であり、第７次瑞浪市総合計画は本事業展開を踏まえた計画とする必要があると考えているため、第７次瑞浪市総合計画の策定に向けた取組の１つとして、今回、この審議会で報告させていただく。

資料３は、ワークショップで若手職員が作成した提案資料と、それに至った分析データである。

１～４ページは、政策立案ワークショップの概要、参加メンバー、ワークショップの様子などを記載している。

５ページ以降が立案の成果である。６、７ページは、RESAS で得られた瑞浪市の現状を示

している。人口減少が進んでいることや、7ページの下のグラフでは、瑞浪市の特徴として高校生の転入が著しく、大学進学や就職時の年代で転出が著しいことが見てとれる。

９ページは、駅周辺再開発事業では、「未来の子どもたちに渡せるまち」をコンセプトに、駅南地区では住居と商業施設の整備、駅北地区では図書館を中心とした複合公共施設の整備を検討している。キッチンカーやマルシェ等の賑わいづくりのソフト事業も併せて計画している。今回のワークショップでは、こうした既に進んでいる計画と連携し、より魅力あるまちとなるような施策を提案しようと考えた。

10 ページは、他市のデータである。上の東濃５市のグラフは、瑞浪市と似たような形になっている。下のグラフは、県内で瑞浪市と違う形が顕著であった自治体および全国で若者が多く流入している市を抜粋したものである。千葉県松戸市、流山市、浦安市、栃木県宇都宮市などで違いが顕著に表れている。

11 ページの下のグラフは、若者が多く流入する市の 2000 年と 2020 年の人口ピラミッドの様子である。20 年後の人口ピラミッドが同じ形でスライドしており、例えば 2000 年に 20 代だった若い世代が、2020 年に 40 代として定着していることが推測される。

こうした傾向にある自治体の特徴を調べたところ、12 ページにあるように、「子育てしやすい街」をうたっている自治体が多いことから、瑞浪市においても子育て世代向けに駅周辺で何か提案できないかという視点で、「女性が働きながら子育てしやすいまち」という要素を駅周辺再開発に加えてはどうかという考えに至った。

そのほか、過去の市民アンケートや子育て支援に関するアンケートなどを分析し、さらに、17 ページにあるような、瑞浪市の強みや今後訪れるプラスとなり得る機会を洗い出し、これらと「働く女性」・「子育て世代向けの何か」を掛け合わせた施策の検討を行った。瑞浪市の強みとしては、学校が充実していることが挙げられる。機会としては、子どもの一時預かりのニーズが高まっていることや、テレワークが広がっている現状をポイントとして検討した。

19 ページは、現在、ファミリーサポートセンターという、子どもを一時的に預かってほしい依頼会員と、預かることができる提供会員をマッチングする、子育て世代を支援する制度が全国的に普及しているが、自治体によってその活用状況はまちまちである。瑞浪市においても、提供会員が少ない、提供会員や依頼会員の家での預かりとなることに抵抗があるなどの課題があり、活用が思うようにされていない。その現状を駅周辺の活用で解消できないかと考え、「提供会員の拡充」、「新施設の利活用」、「マッチングアプリの導入」を提案した。提供会員の拡充については、市内の中京学院大学には保育士や看護師になるため勉強をする学生が多数在籍しているため、大学と連携を図ることで提供会員を充実させる。また、20 ページにあるように、駅北地区に予定する複合公共施設にキッズスペースや多目的ホールを充実させることで、それぞれの自宅での預かるという抵抗をなくす。マッチングアプリを導入することで、スムーズな利用、突発的なニーズにも対応する。これらが実現すれば利用しやすい仕組みがつくれるのではないかと考えた。

22 ページは、駅という立地条件を利用した市外からの利用者の増加が期待できること、

併せて、駅周辺に習い事ができる施設を充実させたり、図書館を利用した読み聞かせボランティアとの連携などができると、さらに効果的ではないかといった意見も挙がった。駅に人が訪れる機会が増え、賑わいにつながることも重要という考えのもと、このような提案をまとめた。

この提案は、あくまで政策立案ワークショップという市の若手職員を主体とした提案の段階ものであり、このとおりに実現に向けて進んでいるという趣旨のものではない。提案した内容が実現していくかどうかは、期待と同時に、想定される課題を解消しながら考えていくことになる。市としては、働く女性、子育て世代などの若い世代に対しての支援は、第７次瑞浪市総合計画全体において重要視すべき視点の１つであると考えているので、この提案が形になっていくことを期待している。

【会　長】

RESAS は、一般の方は触れることのないデータベースかと思う。県・市町村の人口だけでなく、まちの一定の時間における人口、夜間人口、昼間人口等を見ることができ、様々な活動の根拠として使える、かなり大きなデータベースである。行政だけではなく、様々な方々が利用しており、本学でも行政、政策を学ぶときに基本的なデータベースとして活用している。

先ほどの説明に対してご意見等あるか。

【委　員】

子育て世代への支援について、PTA にも様々なアンケートを採られているが、そういうものは使われているのか。瑞浪市内の子育てをしている方たちからは、駅から離れている地区、山間部の辺りは子育てがしづらい、学童クラブがなく学校が終わってから子どもを預ける場所がないという話をよく聞く。駅の周辺に子育て施設をつくるという話があったが、車での送迎が必要なため利用できない方がかなり出てくると思う。政策立案をされるときには、そういった地域ごとの子育てのニーズをきちんと調べ、即効性があり、かつ、子育て世代の方が納得できるようなものをつくっていただきたい。そうしないと、瑞浪市で子育てをしようと転入してくる方はいないと思う。

全国的に少子高齢化しているというのはわかるが、瑞浪市でどのようにして人口を増やしていくか、子育てをしやすい環境をつくっていくかというところは、行政でしかできないことが多々ある。即効性があり、来年度、再来年度からでもすぐ運用が可能な政策を作ってほしい。瑞浪市の PTA 会員は 2,245 名いるが、人口が多い瑞浪小学校近辺では定員をオーバーしている学童クラブがあるなど、市内の中でもニーズがかなり違う。そういった情報をしっかりと丁寧に汲み取って政策立案をしていただかないと、PTA 連合会で情報発信としてファミリーサポートセンターの話をしても、絶対納得されないと思う。

【事務局】

今のご意見は、市長と語る会や地域懇談会などでも多く頂戴している。地域によって状況が違うので、丁寧なきめ細かい対応が必要と考えている。今回、若手が提案したものは、瑞浪駅周辺再開発にスポットを当てた中で、そこにどういった機能を持たせて付加価値を生むか、働く女性という視点から子育て支援できる施設があったらいいのではないかと考え、このような提案になっている。

委員が言われた部分については、丁寧に対応したいと思っている。行政としては支援をしたいのだけれども、担い手がいないという課題についても、担当課や地域の皆様のご意見を聞きながら、第７次瑞浪市総合計画に位置付けていきたいと思っている。

【事務局】

私もこの若手職員のワークショップに参加した。今回の資料には細かいことが書かれていないが、先ほどの、駅周辺では送迎が課題ではないかという意見も挙がった。その意見に対し、例えばシルバー人材センターなどで送迎ができる方がいらっしゃるのではないか、そういったものを掛け合わせることで、送迎ができない方のニーズにも応えられるのではないかといった意見が出ていた。今回の若手の提案を今後検討するにあたり、そういったところをさらに分析しながら進めていければと考えている。

【会　長】

私は別件の政策立案の研修に少し関わっているが、市役所の職員の方々は、市街地だけではなく全域を踏まえた上で、多方面のデータを用いながら検討している。恐らく今回のワークショップも、そういう情報も踏まえた上で、今回は駅周辺についての有効活用や市民のメリットのご提案だと思う。こういった研修で若手の方々が政策を立案する力をどんどん付けて、この瑞浪市がより良い行政サービスが提供できるようになることを期待している。

そのほかご質問等はないか。

【委　員】

こういったデータを用いて若手が政策立案を経験するという一連の研修は、非常に意義があると思う。

10 ページの、千葉県や栃木県で 20 代～30 代が増えている所について、千葉県の松戸市と浦安市で 2000 年より前に一気に人口が増えているのは、ゼロから開発されたことが大きいと思う。例えば松戸駅は、今は商業施設が多くあって栄えているが、開発される前は田んぼしかなかった。浦安市もただ広い野原のような状況だった。そこに鉄道が通るなどして開発され、人口が増えたのではないかと思う。流山市は、特に 2000 年以降に増えているが、これもつくばエクスプレスという、秋葉原から筑波までを結ぶ鉄道ができ、大きな商業施設や大学が参入したという経緯がある。宇都宮は満遍なく上がっているが、これも湘南新宿ラインという、１本で新宿に行けるものができたことによって、首都圏へ通勤、通学する人が

増えたのではないか。子育てという観点ももちろんあるだろうが、開発とか公共交通機関の充実が、人口が増える大きな要因ではないかと思う。

【会　長】

専門的な知見からのご指摘である。研修の際に私がよく申し上げるのは、１つのデータだけで解釈しないほうがいいということである。幾つもの資料を見て、なぜ増えたのか、全てが行政サービスのもと増えているのか、ほかの要因があって増えたのかを検討することが大切である。こういった研修は、データの扱い方、アンケート結果の読み取り方を学ぶ重要な機会であり、瑞浪市の行政サービスの向上に直接つながっていくと思う。

【委　員】

前の委員の意見に同調する。

瑞浪市駅前周辺の再開発の構想については、市長と語る会等で説明はされたが、よく見えないところがある。今は、東京をはじめどこの都市も、駅周辺を再開発して、その中に医療・福祉・子育て支援を集約し、その中に商業施設など様々なものが入っている。瑞浪駅も、名古屋圏、土岐圏に通えるため、様々なことが考えられるが、民間大手のデベロッパーを引っ張り込んで計画するようなことは考えておられるのか。医療機関を集約するということで個人の医者がたくさん集まってきた一方で、総合病院が土岐市に行ってしまうことが起きており、連動性が非常に難しい。駅前の集約をまた戻してはどうかという考えもあるが、集約したほうがこれからのまちづくりに活かせると思う。

私は日吉に住んでいるが、若い人たちはみんな山を越えてまちに出てしまう。彼らが瑞浪市に家を建ててくれればいいが、名古屋に近いとか、利便性があるということで、土岐市に行ってしまう。そのため、瑞浪市の人口が減少しているのではないかと考えている。

駅前の再開発を、瑞浪市の行政でどれだけできるかが一番心配である。大掛かりに思い切ったことをしないと、10 年、20 年先、瑞浪市はなくなってしまう。瑞浪駅は名古屋も近いし、いい所なので、その辺をよく考えていただきたい。とにかく、医療・福祉・子育てを集約してほしい。

【会　長】

今回の政策立案にまつわるご意見をいただいた。駅周辺の開発に関しては、私の学生も駅周辺のフィールドワークをしているが、多方面の様々な方々が関わっていると拝聴しているので、ご指摘の点については、この提案とはまた別にきちんと議論されていると思う。

この点について、事務局から何かあるか。

【事務局】

瑞浪駅周辺再開発事業の現状について説明させていただく。駅北地区は市が主導して整備を行い、今、市営の駐車場がある辺りに、文化センター機能と図書館が入った複合公共施

設を建設する予定であり、また、駅には北側からも入ることができる予定である。子育て支援の場所も公共施設の複合化の計画の中に入っている。

一方、駅南地区は、組合を設立して、デベロッパー等について今後議論していくことになる。まずは駅北地区から整備する。今は、基本計画までできたところである。スケジュールとしては、リニアが令和９年の開通を目指しているので、駅北地区が令和 10 年度頃から開業することを目標としている。

【会　長】

市民の方々、近隣の方々の注目度は大変高いと思う。それぞれの立場で、関われる方は関わって、しっかりと行政と連携しながら進めていただければと思っている。（３）政策立案ワークショップ成果報告については、以上としたい。この報告についてご了承をいただけたものと思うが、よろしいか。

（異議なしの声）

続いて、（４）「第７次瑞浪市総合計画基本構想について」、資料４－１から資料４－４の説明をお願いする。

（４）第７次瑞浪市総合計画基本構想について

【事務局】

今回提示する基本構想骨子案は、今後数カ月かけてこの審議会や議会の特別委員会でご意見やご提案等をいただきながら作り上げていく、そのたたき台となるものである。今回の骨子案は、基本構想の要点となる事柄をまとめている。最終的な基本構想、ビジョンブックでは、審議会等で決議をいただいた骨子に基づき、さらにかみ砕いて分かりやすく記載していく予定である。

資料４－２　まず、全体の構成について、資料４－２で１枚にまとめている。

第６次瑞浪市総合計画の構成を左、第７次瑞浪市総合計画の構成を右に示している。第６次瑞浪市総合計画では、「第１編 総論」で、構想の策定にあたっての計画の意義、時代の潮流、瑞浪市の現状と課題などを記載した上で、基本構想の本編に入るという構成にしていた。第７次瑞浪市総合計画では、基本構想をビジョンブックとしてより分かりやすくシンプルな形で伝えるという趣旨のもと、「Ⅰ 基本構想」ではじめに基本構想を示すことで、何を目指すのか、何をするのかを強調したいと考えている。そのあとに、構想の決定に至った背景を「Ⅱ 計画の策定にあたって」として、第６次瑞浪市総合計画の「第１編 総論」にあたる部分をまとめる形で考えている。

コンセプトや主な変更点を、資料の中央の赤枠点線囲み内に記載している。主な変更としては、まちづくりの基本方針を６本から５本にスリム化したいと考えている。その詳細については後ほど説明する。また、昨年度、市の情報発信を積極的に行う目的で、シティプロモ

ーション基本方針を策定した。第７次瑞浪市総合計画では、その方針もこの中に位置付け、情報発信をしながら魅力を高めていきたいと考えている。

資料４－１　骨子案について説明する。

２ページ、「１．計画策定の趣旨」では、既に示した「第７次瑞浪市総合計画策定方針」において現状と課題を説明しているため、その文言を引用し、社会情勢を踏まえつつ第７次瑞浪市総合計画を策定することで、10 年後の目指すビジョンを明確にし、まちづくりを進めていくという趣旨を記載している。次に、「２．計画の位置づけ等」として、総合計画が自治体運営の最上位計画であることや、計画では限られた財源の中で「質」を重視すること、地域課題への対応を柔軟に進めていくことを記載している。

３ページ、「３．計画の構成・期間」では、総合計画が基本構想、基本計画、実施計画からなること、計画期間は令和６年度から 15 年度までの 10 年間とすること、第６次瑞浪市総合計画と同様、基本計画は５年を目途に見直すこと、実施計画は３年度を計画期間としてローリングすることを明記している。

４、５ページ、「１．将来都市像」については、現時点では市民意見等を踏まえながら担当課や庁議等で協議を進めているところで、検討段階である。将来都市像は、何を目標としているのかを１フレーズでわかりやすく市民の方々に伝えることが重要と考えている。案の中には、第６次瑞浪市総合計画で用いた「幸せ実感都市みずなみ」も含んでいる。これまで、総合計画の策定ごとに新しい都市像を採用していたが、構想の方向性自体は不変なものとして計画は進んでも都市像は変えないという考え方もあろうかと思い挙げている。なお、第６次瑞浪市総合計画では「共に暮らし 共に育ち 共に創る」というサブタイトルが付いていたが、今回の意見聴取結果や第７次瑞浪市総合計画期間での各種事業展開を見据えて、このサブタイトル部分を変更する形で示してもいいのではないかと考えている。将来都市像については、この審議会や議会特別委員会など様々な方々から、この案をベースにする、これらの複数案を掛け合わせる、新しいフレーズを入れるなど、忌憚ないご意見をいただきたいと思っている。

６ページ、「人口フレーム」を示している。同ページ一番下にあるように、「人口ビジョン」とは長期的な人口推計全体で、上のグラフでは令和 42 年（2060）年までの全体を指している。「人口フレーム」とはそれを切り取った推計で、上のグラフでは、第７次瑞浪市総合計画の計画期間である令和 15 年度までの部分を指している。第６次瑞浪市総合計画では、令和５年度末における目標人口として 40,000 人という高い目標を立て、取組の推進力としてきた。第７次瑞浪市総合計画では、直近の令和２年の国勢調査の実績値が 37,150 人であることを踏まえ、基準推計を見直すとともに、第７次瑞浪市総合計画の一定の施策効果を見据え、令和 15 年度終了時の目標を 34,000 人としたいと考えている。上の表では、黒線が、令和２年国勢調査の実績を踏まえて独自に推計したグラフである。何も対策をせず推移を自然に任せると、瑞浪市の人口は令和 42 年には 20,586 人、第７次瑞浪市総合計画の終期にあたる令和 15 年には 31,741 人まで減少するが、第７次瑞浪市総合計画期間の 10 年間の施策の効果等により、青線にある 34,000 人まで引き上げる目標で考えている。なお、この推

計は令和２年国勢調査の実績をベースに算出しているが、社会保障・人口問題研究所の最新の人口推計が令和５年度上半期に公表される予定なので、基本構想の策定時期に間に合えば、社会保障・人口問題研究所のデータをベースにした記載に変更したいと考えている。

８、９ページ、「３．土地利用構想」については、土地利用の方向性の大幅な変更は考えておらず、第６次瑞浪市総合計画に位置づけた土地利用構想を踏襲するが、第６次瑞浪市総合計画期間に整備された拠点、時代の移り変わり、リニアの活用戦略などを視野に入れて更新する。最終的には瑞浪市全図を付けて示す予定である。

10、11 ページ、「第３章 まちづくりの基本方針」については、資料４－３で第６次瑞浪市総合計画と第７次瑞浪市総合計画を比較して示している。

資料４－３　左に第６次瑞浪市総合計画の体系、右に第７次瑞浪市総合計画の体系、点線枠内に変更の背景を記載している。

まず、人口減少社会において地域の宝である子どもを総合的に育むとともに、教育的環境の向上にフォーカスし、子育て支援、教育関連を「１．人・未来を育むまちづくり」に位置付ける。２番目には、情報発信力が課題という意見が多く寄せられる中、シティプロモーションなどの情報発信と、第６次瑞浪市総合計画で力を入れてきた協働のまちづくりが第７次瑞浪市総合計画においても特に重要視されることを見据え、「２.魅力あふれるまちづくり」に位置付ける。「３.生涯活躍のまちづくり」では、地域福祉・社会保障、健康・医療、障がい者福祉、高齢者福祉を、「４.活力みなぎるまちづくり」では、農林業、商業、工業等の産業分野を位置付ける。「５.持続可能なまちづくり」では、環境保全・エネルギー、インフラ、消防・防災などのまちづくりの基盤となる項目を位置付ける。

第７次瑞浪市総合計画から一体的に整備する行政改革大綱については、５の中の「行財政運営」に位置づける予定である。

資料４－１　12 ページ、「第４章 計画の推進にあたって」として、市民の役割、行政の役割を示している。まちづくり基本条例を踏まえ、協働の取組を通じて地域課題を解決するとともに、本市の「目指すビジョン」を実現すべく取り組んでいくことが重要であることを示している。

13 ページからの「Ⅱ 計画の策定にあたって」は、基本構想の「目指すビジョン」の方向性を示した背景となる補足的資料となっている。13 ページ、「瑞浪市の概況」では、歴史あるまちであることや、インフラが充実していることを示している。

14～16 ページ、「第２章 社会潮流」として、世界や日本全体の潮流を示している。14 ページ、「１．人口減少社会と少子高齢化」では、こうした現実がある中、地方創生の推進や、国が進める「デジタル田園都市国家構想」の実現を目指して地域活性化を進めていること、「２．情報通信技術（ICT）の普及と新たな展開」では、IoT、AI、5G の活用により、利便性を高め、障壁のない情報活用の環境づくりが求められていること、15 ページ、「３．地域のつながりの再認識・協働の重要性の高まり」では、地域活動の担い手の減少やライフスタイルの多様化等により、地域のつながりが希薄化し、コミュニティ機能の低下が懸念される中、地域のつながりの大切さが再認識されており、パートナーシップを発揮しながら、よりよい

地域づくりを進めてくことが重要であること、「４．経済情勢と働く環境の変化」では、厳しい経済情勢の中、働き方改革の推進やライフスタイルの多様化に伴い、仕事と暮らしを両立できる環境整備が求められること、「５．地球環境問題への取組」では、国の温室効果ガスの削減目標などを記載し、カーボンニュートラルの実現に向けた取組が進められていること、16 ページ、「６．安全・安心意識の高まり」では、近年の大規模な災害を挙げ、各自治体で国土強靭化地域計画が策定されていることや、防災意識や対策のさらなる推進が求められること、また新型コロナウイルスの対応や悪質な犯罪の多様化・複雑化していることから危機管理体制の充実と犯罪や事故のない安全な社会づくりが求められること、「７．持続可能な行財政運営」では、地方分権が進み、地域の実情やニーズを踏まえた主体性のあるまちづくりが求められることや、自治体の持続可能性の観点から効率的・効果的な行政材運営が求められることを記載している。

17～19 ページ、これらの社会潮流を踏まえ、それに対応すべく本市の課題や方向性を示している。「１．人口減少社会・少子高齢化への対応」では、若い世代が安心して働き、子育てができる環境整備を進めること、後継者不足や不在を背景に、地域活動においても若い世代の参加や地域人材を育むまちづくりを進めることが必要になること、「２．魅力創出と情報発信の両輪による取組」では、積極的な情報発信による認知度及びイメージの向上、本市への愛着を醸成することが求められ、すべての世代に対して分かりやすい情報発信・情報共有が重要であること、「３．ともに支え合い、生きがいを持って暮らせる地域づくり」では、高齢化の進展に伴い、介護や支援を必要とする人の増加が予測されることから、健康づくりや介護予防、重度化の防止とともに、意欲ある高齢者が地域で活躍できる仕組みづくりが重要であり、助け合い暮らすことのできる地域共生社会の実現が重要であること、18 ページ、「４．産業の総合的な活性化」では、各地域に存在する魅力ある資源をつなぎ、地場産業の持つ力を最大限に活かすことで活性化につなげ、新規・規模拡大等の事業者の支援に取り組むことで産業全体を活性化していくことが重要であること、「５．環境・基盤整備の推進」では、継続した環境負荷軽減の取組が重要であり、省エネ・新エネルギーへの取組を推奨することで環境に対する意識向上に取り組んでいくことが必要であること、「６．安全・安心のまちづくり」では、災害に対する自助・共助の考え方のもと、発災時には適切な行動をとり人的被害が軽減できるよう、積極的な情報発信の取組が必要であり、防犯面においても一人ひとりが防犯意識を持ち、地域ぐるみで取り組むことが必要であること、19 ページ、「７．　時代に即した行財政運営」では、先端技術を積極的に活用するなど、利便性と質の高い行政サービスの展開を図ることが重要であり、民間活力の導入や官民連携に積極的に取り組むなど、持続可能性が担保された財政基盤を確立していく必要があることを記載している。

20 ページ、人口ビジョンと総合戦略について触れている。６ページで説明した人口ビジョンを補足するものである。令和 42 年に 28,000 人程度の人口規模を維持することを目標に、各種子育て支援施策や移住定住施策、駅周辺再開発、岐阜県リニア中央新幹線活用戦略等の効果を想定し、実現を目指すことを示している。「２．瑞浪市版総合戦略」は、現在別

個に存在する「瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を第７次瑞浪市総合計画に包含する形にするため、触れている。具体的な内容は基本計画において示すが、総合戦略は市の施策の中でも人口減少対策、地域活性化の取組として重要であるため、基本構想においても触れているものである。

資料４－４　今後のスケジュールについて、第１回審議会で説明したものから変更が生じているので、説明させていただく。

上段の「会議等」については、概ねこれくらいの回数・時期を予定しているが、今後の状況に応じて都度調整しながら進めさせていだく。令和５年９月に基本構想、12 月に基本計画の議会上程を行う予定なので、パブリックコメントをそれぞれ４月頃、８月頃に予定している。今後、基本構想、基本計画案を提示していきたいと考えている。

【会　長】

ただ今の説明に対して、意見・質問等あるか。

【委　員】

第一に考える必要があると思うことは、人口ビジョンである。2060 年に 28,000 人程度の人口規模を維持すると書かれているが、28,000 人の人口で市としての体系が保たれるのか。人口維持をするということでは力が弱いように感じてならない。こうした構想をしっかり考えても、その計画は無駄になってしまう気がする。本当に人口 28,000 人で瑞浪市の仕事が増えていくのか、安心して暮らせる瑞浪市民を守れるのかどうか、非常に不安を感じる。その辺についてのお考えをお聞きしたい。

【事務局】

社会保障・人口問題研究所が発表している人口推計では、何もしなければ 2060 年は 20,500 人程度となっている。日本全体が人口減少の社会に突入している中で、これといった画期的な手立てがないというのが現状である。それでも市を維持していかなければならず、また、行政サービスも維持していかなければいけない。その中でできることをこの基本構想に落とし込んで、社会保障・人口問題研究所が示す推計値よりも多い 28,000 人を目標とした。これでも結構高い目標だと、事務局は考えている。今回の 10 年の人口フレームの令和 15 年で 34,000 人程度というのも、かなりハードルが高い目標である。

第６次瑞浪市総合計画では 40, 000 人という目標を掲げ、それを施策の推進力として、民間の力も借りて頑張ってきたが、日本全体で人口が減っている中で、やはり難しかった。ただ、企業誘致や、ソニーの跡地にアイシンを誘致した影響もあって、国勢調査の結果は国が示す推計値よりも高かった。第７次瑞浪市総合計画、第８次瑞浪市総合計画、40 年先の時に自治体や国がどのように変わっているかわからないが、現状で 28,000 人程度でも維持できている地方公共団体も実際に存在しているので、工夫しながらやっていきたいと考えている。

【会　長】
人口に関して、確実に減ることは皆様ご承知のとおりである。かつてのようにどんどんと増えることはないため、現実的な数字を踏まえた上で、将来を担う若者、子どもたちを維持し、幸せなまちとして継続できる計画にされているのだと認識している。社会保障・人口問題研究所の推計はほぼ全国全ての県、市町村のデータの基になっており、そこから各市町村・県の人口のビジョンや、施策で減り方を抑えていくかを考えている。減ることを前提に、どのようにまちを維持していくかという計画が、この総合計画だと思う。
社会や日本はどんどん変わっていく。行政だけではなく市民の方とともに、この変化に対応していくという認識がとても重要である。この計画がしっかりの市民の中に浸透して、社会の潮流にそぐわなければ、市民から意見を出す。それに対応して行政が変わっていく。そのための基本的な考え方の指標となるのが、この計画だと考えている。

【委　員】
４、５ページの「目指すビジョン」でフレーズを考えるということだが、現状を見ると、人口が減少していく中で働く場所がだんだん少なくなってきている。先般市長が、大手の企業を誘致する場所がないと言われていたが、大手企業ではなく、10～15 人くらいの小さな企業でも何十社集まれば大きな雇用が生まれるのではないか。
資料３に、「女性が働きながら子育てしやすいまち」とあったが、病院がなくなり、医療がこれからどうなっていくのか不安を持っている。東濃厚生病院の跡地利用について市として要望を出していることは聞いているが、それができなかった場合、市はどのように対応していくのか。人口も企業も減少していく中で、この瑞浪市に住みたいと思うだろうか。その辺が明確にならないと、このビジョンは成り立たないと思う。

【会　長】
個人的な意見であるが、日本全体の人口が減る中で、瑞浪市だけ増えればいいという考え方はあまりよろしくないと思うし、瑞浪市が独り勝ちすることは現実的ではない。近隣の市町村も含めて、将来に向かって手を携えながらやっていかなければならないだろう。
今のご指摘はとても重要である。大企業が入ったからといって、劇的に人口が増えることはまずない。なぜなら、今はいろいろな働き方、いろいろな考え方があるからである。行政の努力はもちろんだが、市民がどうするかということが、今、問われている。

【事務局】
総合計画は市の最上位の計画である。もれなく様々な分野のことを計上して、それに向かって瑞浪市が良くなるようにする指針になるものであるが、今、現実の話をしていただいた。
医療については、瑞浪地域だけの医療を考えれば東濃厚生病院の存続は大事だが、東濃地域で考えると、人口減少、医師不足等の中、土岐市立総合病院と東濃厚生病院を両方維持し

ようとすると共倒れになることを危惧して、土岐市にて合併するという苦渋の決断をした。病院が遠くなることは我々も大変気になっており、そこまでの交通手段の確保など必要と思っている。東濃厚生病院の跡地利用については、今、市長が鋭意努力して交渉している。今後、お示しできると思う。

今は働き方改革もあり、瑞浪市に住みたい、静かな場所で暮らしたい、都会の中で暮らしたいなど、考え方も様々ある。その中で瑞浪の魅力を発信すべく、今回はシティプロモーションを外出しして位置付ける。瑞浪市の資源を外に発信して、呼び込んで定住していただきたいと考えている。瑞浪市観光協会も立ち上げた。そういった様々な分野の方々と協力して、瑞浪市を盛り上げていきたい。土岐市はアウトレットもあるし、イオンもできたし、新しい総合病院もそちらに移る。それを踏まえて、瑞浪市でできることをこの総合計画の中で位置付けて、発信していきたいと考えている。

【委　員】

新型コロナウイルス感染症対策が続いている中で、文部科学省から令和３年 10 月 27 日に、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が公表された。新型コロナウイルスの影響は全ての世代が受けていると思うが、義務教育、高校、大学に通われている子どもたちがこの期間に経験したことに関しては、長期間にわたる様々な関係団体の皆様の支援が必要だと思う。子どもたちの個人の努力ではどうにもできないことであり、「仕方がない」で対応させるのはあまりにも酷である。

そこで、岐阜県の PTA 連合会では、10 月 29 日に土岐市の文化プラザで、研究大会を開催した。その模様が岐阜県 PTA 連合会のホームページのビデオギャラリーで動画配信されているため、時間がある時に見ていただければ、PTA がどのようにしてコロナ禍を経験した子どもたちの応援する活動をしていくかを理解していただけると思う。かつ、そういった部分を第７次瑞浪市総合計画に反映して子育ての環境をつくって、発信していただければと思う。そうすれば、瑞浪市で子育てをしている保護者も、ここで子育てして良かったと感じると思うし、子どもたちも、いろいろな大人の皆様に協力してもらい、大きくなった時に自分が受けた経験を下の世代につないでいくなど、地域に対する愛着につながると思う。

【事務局】

貴重なご意見に感謝する。まさにおっしゃるとおりだと思う。児童生徒の先の調査の話をいただいたが、私どもの市民アンケートの結果でも、令和４年度は様々な数値が減少している。その原因にはコロナ禍ということもあると考えている。子どもだけでなく、産業など、今後は全般的にそういった視点で考えていく必要があると認識している。ビジョンブックもそういった観点で検討していければと考えている。

【会　長】

まだご意見があるかと思うが、時間の関係上、資料４については以上とし、お手元の意見

の用紙について説明をお願いする。

【事務局】
お手元に「第５回瑞浪市総合計画審議会に関するご意見等」という紙を配布させていただいた。基本構想は特に重要な部分であり、この場では意見を出し尽くせないと思うので、この用紙を用意させていただいた。一番下に記載しているとおり、１月 10 日までにご意見、ご提案、将来都市像のフレーズなど、忌憚なくいただきたい。提出方法はメール、FAX など、どのような形でも結構である。

【会　長】
皆様の活発、率直なご意見を期待している。今回いただいたご意見、今後いただくご意見等を含めて、ご検討いただきたいと思う。
今回、事務局からお示しいただいた第７次瑞浪市総合計画基本構想については、案どおりで進めていただければと思う。この基本構想は根幹となる部分である。将来都市像、構成、文言といったところについて、この審議会以外にも、特別委員会、その他の検討する場などでも様々な意見が出ると思う。そういったところも活用しながら策定を進めていただければと思う。
以上で、第５回瑞浪市総合計画審議会の議事を終了する。進行を事務局にお返しする。

３．その他
【事務局】
「その他」として３点ある。まず、資料５「瑞浪市はどのように思われているか」について、稲垣委員から説明をお願いする。

【稲垣委員】
資料５　前回の審議会で、瑞浪市観光協会が実施した外部から見た瑞浪市の調査結果を市に提供すると発言したため、調査結果について簡単に報告させていただく。この調査は、ラジオ番組と旅行予約サイト「じゃらん」で行った。
１ページ、旅行先を選ぶ際に重要視した情報について、１～３位を見ると、まずは宿泊施設を決めるために旅行予約ウェブサイトをご覧になり、宿泊施設の情報を詳しく知るために宿泊施設の公式ウェブサイトをご覧になり、さらに口コミ情報を入手されている。４、５位では観光施設情報を入手されている。このことから、宿泊先を決めてから、付近の観光施設の情報を入手するという傾向があると思われる。
２ページ、旅行前の「旅マエ」、旅行中の「旅ナカ」、旅行が終わったあとの「旅アト」の人の心理を図にした。先ほどの１ページは、「比較･検討」、「計画・予約」段階で、その前に「認知」と「関心・興味」がないと、比較・検討、計画・予約には至らない。
３ページ、認知度と興味・関心度を測るためのグラフである。これを使ったギャップ調査

というものがある。この調査の目的は、市外の方からどう思われているかを認識し、市内の方とのギャップを明らかにし、今後の方向を考えるということである。この調査はエリア特有の資源、価値、強みの発掘と整理ができる。右上の、認知が高く関心が高い観光資源を「スター資源」と呼ぶ。スター資源の定義は、認知度 50%以上・関心度 50%以上の観光資源である。その左の、認知は低いが関心が高い観光資源は「お宝資源」と言う。認知が上がればスター資源、観光地になる可能性がある。定義は認知度 50%未満・関心度 50%以上の観光資源である。その下の、認知も関心も低い観光資源は「未開発資源」となる。定義は認知度・関心度とも 50%未満の観光資源である。その右は、認知はあるが関心が低い「マンネリ資源」で、定義は認知度 50%以上・関心度 50%未満の観光資源である。

４ページ、過去に京都市が行ったギャップ調査の結果である。京都市内のスター資源には、嵐山・トロッコ・保津川下り、世界遺産寺社仏閣など、皆様もご存じのものが多々ある。マンネリ資源には、お茶・茶道・華道、舞妓など、敷居が高いものが多い。行きたいけれども行けない、知っているけれども行くつもりはないなどの要素があると思われる。

以上を踏まえて、瑞浪市が市外からどう思われているかの調査結果について説明する。ぎふチャンラジオでは瑞浪市の認知度、じゃらんでは東濃地域の認知度・関心度を調査した。

５ページ、ぎふチャンラジオの「GIFT Tune」という番組で、聴取者の方に瑞浪市のイメージを聞き、220 件の回答をいただいた。聴取者の大半は岐阜県、愛知県の岐阜県寄りの方と想定している。瑞浪市のイメージで多かったのは、「化石（採集・博物館）」で、58 名、全体の約４分の１だった。２位は「陶磁器」で、伝統的な産業と認知されていると思われる。３位は「知らない・読めない」であった。14 位の「小簾公園」は瑞穂市の間違い、「中京大学（浅田真央）」も間違いなので、「知らない」に属する。あとは、４位が「自然が豊か」、「ボーノポーク」などの食を連想するもの、６位「ゴルフ」、７位「暮らしやすい街」、８位「鬼岩公園」、９位「中山道」と続いている。

６ページ、じゃらんの調査で、東濃地域に対するイメージを聞いた結果である。東濃５市のイメージの１位は、中津川市の「栗きんとん」を除いて、「自家用車で行ける場所」であった。ほかに多い回答としては、「自然が豊か」、「秋に訪れる場所」が各地でランクインしている。ほかの地域に比べて、瑞浪市は全体的にポイント数が低い。残念ながら、知らない・イメージが湧かないというところが多々あると想像される。

７ページ、東濃地域の来訪目的となった場所は、１位、プレミアムアウトレット、２位、中津川の栗きんとんと続いている。瑞浪市でランクインしているのは、７位に鬼岩公園、16 位に化石採集、以降、竜吟の滝、サイエンスワールド、ゴルフ場、バサラ踊りとなっている。イメージはあるけれども来訪目的にはなっていないということかもしれない。

８ページ、東濃地域のギャップ調査の結果である。認知は低いが関心は高いお宝資源は、世界一の美濃焼、鬼岩公園、竜吟の滝、屏風山、瑞浪ボーノポーク、あんかけかつ丼、天狗塚など多くある。認知も関心も低い未開発資源には、化石採集、サイエンスワールド、地歌舞伎、バサラ踊り、フェスティカサーキットが入っている。化石採集がここのカテゴリーということは、情報発信が足らないと思われる。

９ページ、全体調査ではお宝資源であったものも、大括りにみるとランクが変わる場合がある。全体調査ではお宝資源であった世界一の美濃焼は、65 歳以上では認知度・関心度とも 50%以上で、スター資源となる。鬼岩公園は、65 歳以上および岐阜県では、スター資源となる。未開発資源の化石採集は、20～34 歳および三重県では関心度が 50%以上になり、お宝資源になる。世界一の美濃焼や鬼岩公園は、65 歳以上の方には認知されているが若い方の認知度は低い。化石採集は若い方の関心度が高いと言える。

10 ページ、瑞浪市への来訪経験と来訪意向については、「過去に訪れたことがある」が 68.4%で最多、年齢別では 50 歳以上の方が多い。エリア別では、岐阜県が 76.9%、愛知県が 70.2%となっている。

11 ページ、瑞浪市への来訪時期・季節・回数については、時期は１年以内が 44%で一番多く、季節では春が一番多い。回数は表のとおりである。

12 ページ、瑞浪市来訪時の同伴者は、夫婦が 29.6%で一番多かった。

13 ページ、瑞浪市を訪れてない理由については、「何があるかわからないから」が 45.4%、「わざわざ行く価値を感じないから」が 26.2%となっている。瑞浪市にはたくさんの魅力があるということが伝わってないことがわかる。

14 ページ、今回のじゃらんの調査結果を総合すると、瑞浪市のイメージは「大人の夫婦が求める近くて自然豊かな場所」となる。来訪時の同伴者で一番多かった夫婦の年齢層は、65 歳以上が 43%であった。今後は若い方の認知・関心を上げていくことが必要と思われる。

【事務局】
ただ今のご報告に関して、質問等はあるか。

【委　員】
10 ページに年齢層の傾向が示されているが、回答者の年齢分布としてはどの世代が多かったのか。

【稲垣委員】
1,000 人にランダムに聞いており、年齢層はばらばらである。

【委　員】
ばらばらというのは、大体同じくらいということか。

【稲垣委員】
そうである。大体同じような形で調査をしてもらった。

【事務局】
貴重のデータの提供に感謝する。私どもも総合計画を策定する上で外部の視点は非常に

重要と考えている。この審議会を含めた市民の視点とこういった外部の意見を擦り合わせて、総合計画に落とし込んでいければと考えている。

次に、「大洲町ミライ振興総合計画 2021」について、策定に携わった玉川委員より説明をお願いする。

【玉川委員】

「大洲町ミライ振興総合計画 2021」は 2021 年に策定し、まだ動き始めたところである。

まず、大洲町の未来像として、「大洲町が大洲町として存続していること」を目標に掲げた。先ほど、28,000 人という数字を見て、瑞浪市は本当にそれで存続できるのかと不安の声が挙がったが、そのように感じる方は多いのではないかと思う。大洲町は、14、15 ページにあるように、毎年１組以上の移住者を受け入れた場合、住民の推移は緩やかで、維持できるという明確な数字を掲げ、動きだしている。

中身を一部紹介させていただく。アクションのところは全てのところを、１人でもできること、仲間や複数人でできること、町や市にお願いすることという３つに分けて記載し、住民一人一人が自分たちの努力で町をつくっていかなければいけないということを意識付けている。市や町が全部やってくれるわけではないということを総合計画に盛り込んだほうがいいという若者の意見があり、このような形にした。

これを作るプロセスには全て若手が入っており、総合計画を作ったあと、若手が今自走して活動を始めている。そのように、総合計画ができたあとに、それを掲げて動く若い担い手ができることが、総合計画の本当のスタートだと思っている。

今後、瑞浪市の総合計画を作る際に、各地域の目標と照らし合わせて、一緒に進んでいけるといいと思っているので、質問などあればぜひいただきたい。今後、ほかの地域でも作っていくということで、様々な方面から進めていければいいと思い、紹介させていただいた。

【事務局】

玉川委員にお礼申し上げる。本日配布したので、皆様には持ち帰っていただき、お目通ししいただけければと思う。私も改めて拝見したが、地域のことを地域で考えられてできた計画だと思った。質問等あれば、次回でも結構なのでいただければと思う。

【事務局】

資料６について、瑞浪市制 70 周年ロゴマークの審議をいただきお礼申し上げる。先般、郵送にて結果をご報告したが、ここに掲載しているロゴマークに決定した。視認性を高めるために、原作者の了解を得て、文字の字体や色を少し調整している。このロゴマークを、令和５、６年度に瑞浪市が主催・共催して実施する主要事業に使用する。このロゴマークは、申請していただけば、市以外の各種団体の皆様のイベント等の際にも使用することができる。このチラシの右下に QR コードがあるため、こちらを読み込んでいただくと市のホームページの該当ページに飛ぶことができる。そこに申請書等もあるので、ぜひ積極的に活用い

ただきたい。

【事務局】

長時間にわたる慎重審議に感謝申し上げる。基本構想の骨子案を基に、今後議論を深め、基本計画に移っていきたいと思う。今年もあと 10 日で終わる。皆様方には良いお年を迎えられることを願っている。コロナウイルス感染者も増えているので、何とぞご自愛いただきたい。

紙による意見聴取については、随時どのような方法でも結構なので、お気付きの点等いただければありがたい。

次回は２月上旬を予定している。以上で審議会を終了する。

以上